

大阪あゆみ福祉会 2021 年度事業報告（案）

2021 年度も昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症に振り回された一年でした。

夏秋はデルタ株、年末からはオミクロン株に置き換わり、園児や職員から陽性者が出る中、職員のこどもが通う保育所や小学校からも濃厚接触者の連絡や臨時休園のお知らせも重なり、通常勤務に携われる保育士の確保ができにくいなど日々保育体制に頭を悩ませました。保護者には、可能な範囲での家庭保育の協力依頼をし、園理解でご協力くださるご家庭が多いことに感謝しました。

陽性者が出ると自ずと濃厚接触者の特定がされ、広範囲（単数 or 複数クラス）での長期欠席者が増えて保育が成り立たない事態にも陥り、今年度は初めて二園共に発表会という大きな行事を中止する判断をしました。年長児については、保育園生活最後の発表会だったので、各園で感染状況を見ながら出来る範囲で保護者の方に見ていただきました。

大阪市が今年度より各書類をこれまでのメール添付（エクセルやワード）からクラウド方式で行うようになり、毎回作業ごとにマニュアルを印刷して、それを見ながら作業するなど慣れない作業にとっても手間が掛かりました。そこにコロナ陽性者が発生すれば、市や保健所、保護者対応も加わり我々の事務作業の負担がうんと増えました。慣れるしかありませんが、大阪市の都合で幾度となく作業方法が変わることに憤りを覚えます。

ゆうちょ銀行が紙幣や硬貨の引き出しや両替に一定枚数を超えると手数料が発生するようになり月末支払いも複雑化してきました。世の中がキャッシュレスであることも踏まえて、振り込みや両替など事務の簡素化をするために、この4月よりインターネットバンキングで対応し始めています。

あゆみ保育園では、今年度から要対協（要保護児童対策地域協議会）児童が2名登録されて区と連携して適切な支援を図れるように情報共有してきました。園としても見守りをはじめ、休みがちな児童への電話連絡や朝のお迎えなど支援を繰り返し行ってきたことで、まだ波はありますが、一年経ってようやく生活リズムが整いました。近年、外国籍の児童が急激に増えたこともあり支援を要する家庭は年々増え、保育園の役割の大きさを改めて実感しつつも、そこを担う職員の疲労も精神面も限界に近い状況にあります。どこの園も職員不足の中、大阪あゆみ福祉会でも退職職員がこれ以上に増えないよう職員処遇の改善をはじめ配置基準の見直し等を求めて国に対する保育運動を労働組合と共にしっかりと進めて行かねばならないと考えています。

2021 年度事業報告資料

別紙 1 2021 年度法人活動記録

別紙 2 2021 年度法人・施設体制担当者名簿

別紙 3 2021 年度三者懇談会報告（各園別）

別紙 4 労働組合との話し合い報告

別紙 各園の報告①～⑦

①年間行事結果表 ②各月初日児童在籍数 ③児童出欠率表 ④病気・ケガ報告表 ⑤職員休暇取得状況表 ⑥職員研修参加状況表 ⑦職員との個人面談まとめ（自己評価・アンケートより）